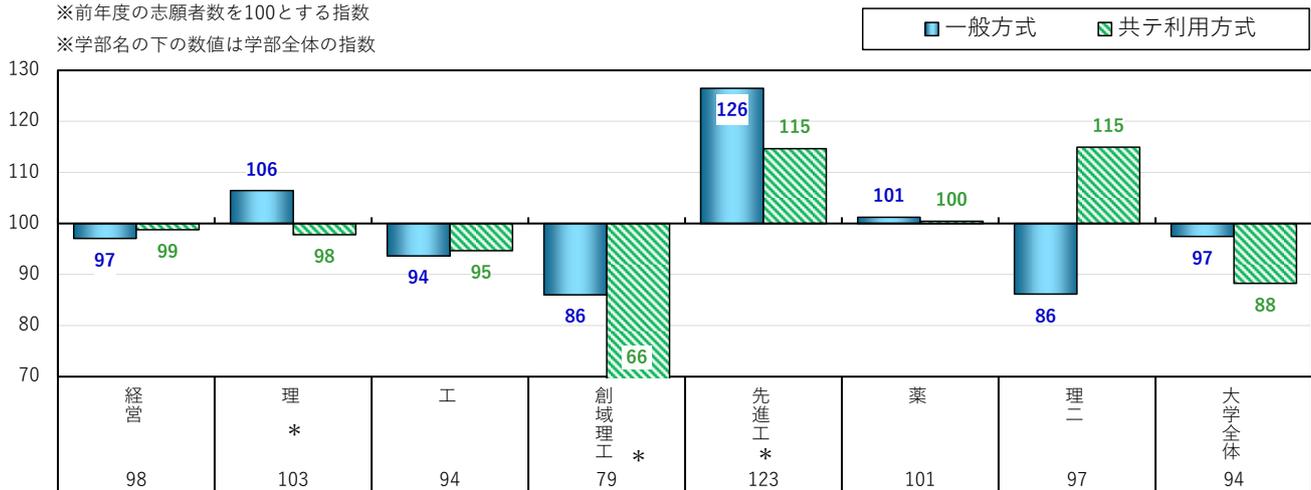


東京理科大：大学全体ではやや減少 グローバル方式は大幅増加 一般：-902人 共テ：-2,152人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



* 理は2022年度の(応用物理)を除いた志願者数との比較、創域理工は2022年度の理工との比較、先進工は2022年度の理(応用物理)と先進工(マテリアル創成工)、(生命システム工)、(電子システム工)の合計との比較

主な入試変更点

学科新設：先進工(機能デザイン工)
 学部改組：理(応用物理)→先進工(物理工)
 学部名称変更：理工→創域理工
 選抜方法：理<B方式>…試験日程を全学科同一日へ統合
 (応用化)・(応用数)・(応用物理)で1日、(化)・(数)・(物理)で1日の合計2日間で開催
 →全学科合わせて1日間で実施
 創域理工(数理科学)、(電気電子情報工)…<一般・S方式>新規実施
 募集人員：創域理工(数理科学)…120人→90人
 (先端物理)…120人→100人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では3,054人(94)のやや減少。一般方式は902人(97)のやや減少。方式別では、英語4技能資格・検定試験利用の<グローバル方式>は456人(122)の大幅増加で2年連続増加、<B方式>は1,872人(94)のやや減少。共通テスト利用方式は2,152人(88)の減少。方式別では共テ併用の<C方式>は1,407人(69)の大幅減少、共テ利用の<A方式>は745人(95)のやや減少。

<一般方式>

- 経営(97)**は、やや減少で4年連続減少。学科別では、2023年度より1年次が長万部キャンパスでの授業となった(国際デザイン経営)(127)は、前年度半減の反動もあり大幅増加、(ビジネスエコノミクス)(106)はやや増加で4年連続増加。一方で、(経営)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(106)**は、学部改組となった旧(応用物理)を除いた比較ではやや増加。学科別では、前年度大幅増加の(応用数学)(98)のみ微減だが、その他の4学科はいずれも増加。特に、(物理)(119)の大幅増加が目立った。
- 工(94)**は、やや減少。学科別では、(工業化)(100)のみ微増、その他の4学科はいずれも減少。特に、(電気工)(84)の大幅減少が目立った。
- 創域理工(86)**は、学部名称変更前の理工との比較で減少。募集人員も6%減少だが、志願者数の減少率が上回り志願倍率は21.5倍→19.6倍へダウン。学科別では、10学科中増加は2学科のみで、(生命生物科学)(124)は2年連続減少の反動で大幅増加、(経営システム工)(103)はやや増加だが、志願者数は3年連続1,000人を下回った。減少の8学科のうち6学科は大幅減少。特に、(情報計算科学)(67)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。新設の<S方式>の志願倍率は(数理科学)が12.8倍、(電気電子情報工)が12.9倍で、いずれも学部全体の志願倍率19.6倍よりも低倍率だった。
- 先進工(126)**は、大幅増加。新設の(機能デザイン工)を除くと(102)の前年度並。学科別では、(電子システム工)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、改組の(物理工)(118)は旧理(応用物理)との比較で大幅増加。一方で、(マテリアル創成工)(84)は2年連続大幅減少、(生命システム工)(91)も2年連続減少。新設の(機能デザイン工)は、募集人員51人に対し志願者数は1,011人で、志願倍率は19.8倍。
- 薬(101)**は、系統への高い人気が続く、微増だが2年連続増加。学科別では、(生命創薬科学)(110)は2年連続減少の反動で増加。(薬)(96)はやや減少で、前年度4年ぶりの増加から再び減少。

<共通テスト利用方式>

- 経営(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、2023年度より1年次が長万部キャンパスでの授業となった(国際デザイン経営)(181)は前年度大幅減少の反動が大きく激増、(経営)(112)は前年度大幅増加の反動はなく引続き増加。一方で、(ビジネスエコノミクス)(64)は前年度50%近い大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(98)**は、学部改組の旧(応用物理)を除いた比較では前年度並。学科別では、(数学)(116)、(物理)(115)は大幅増加で、いずれも2年連続増加。(応用数学)(73)は前年度60%近い大幅増加の反動で大幅減少。(化学)(80)も大幅減少で2年連続減少。
- 工(95)**は、やや減少。学科別では、(建築)(118)は2年連続大幅増加、(情報工)(109)はやや増加で前年度の反動による増減が

継続。他の3学科はいずれも前年度の反動で大幅減少。特に、(電気工)(65)の大幅減少で、志願者数は300人を下回った。

- 創域理工(66)**は、学部名称変更前の理工との比較では減少。募集人員も11%減少だが、志願者数の減少率が上回り志願倍率は21.2倍→15.8倍へダウン。学科別では、10学科中唯一増加の(経営システム工)(104)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は3年連続300人台。減少の9学科は、いずれも前年度の反動。特に、(数理科学)(37)は激減、(建築)(47)は半減以下の大幅減少、(電気電子情報工)(51)はほぼ半減が目立った。
- 先進工(115)**は、大幅増加だが、新設の(機能デザイン工)を除くと(96)のやや減少。学科別では、(電子システム工)(145)は前年度半減の反動で大幅増加。一方で、(マテリアル創成工)(71)は改組前の基礎工(材料工)から3年連続大幅減少、改組の(物理工)(87)は旧理(応用物理)との比較で減少、(生命システム工)(95)はやや減少で2年連続減少。新設の(機能デザイン工)は、募集人員28人に対し志願者数は342人で、志願倍率は12.2倍。
- 薬(100)**は、前年度並。学科別では、(生命創薬科学)(123)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。(薬)(90)は系統への人気はあるが、前年度大幅増加の反動で減少。